

【進路指導係から、休校中の日大二中生・二高生へ】No.2

休校3日目になりました。高校卒業式の自宅学習日をふくめると、学校が休みになって5日目です。学校がある日と同じように、きちんと過ごせているでしょうか？

本来ならば、中学校も学年末試験が始まり、中学・高校とも試験開始前は緊張感に、試験終了後は安堵の気持ちにつつまれている日です。

日大二中では中学2年生の半ばまで、「朝の新聞コラム書き写し」をしていますし、中学3年生では社会科の授業で「新聞記事のスクラップ」をしています。高校では、高校2年生の文系クラスで政治経済の授業で「新聞記事のスクラップ」をしています。高校生は宿題などでなくても、主体的に新聞やマスコミ報道にふれておく必要があります。前回の「進路指導係から」のメッセージでは、この間に行って欲しいことの①に「日々のニュース報道を確認」をあげましたが、昨日・一昨日（3月3日、4日）の報道では、まさに君たちの世代に関する注意が強く報道されていたこと、知っていますよね！

今回のメッセージでは、新聞・ニュース報道から、進路につながることを考えてみましょう。

①キーワードは「ミングる」…10代の若者の行動が問題に…

新型コロナウイルスによる肺炎拡大の問題に関して、政府の専門家会議は「軽症者が気付かないうちに、感染拡大に重要な役割を果たしてしまっている」という考えを公表しました。そして、特に重症にならない若者から広がっている可能性があるとして、全国の10～30代の若者に対して、人が集まる風通しが悪い場所に行かないようにと呼びかけました。

緊急事態宣言が出された北海道では、**活発な若者たちがリスクの高い場所で気付かないうちに感染し、あちこち移動したりして、高齢者の方々に感染させている可能性がある**、という報道でした。北海道以外でも、若者が感染を広げる可能性があるとして、感染拡大を防ぐために避ける場所として、「ライブハウス、カラオケボックス、立食パーティー、自宅での飲み会（食事会）、スポーツジム」などがあげられました。

でも、一昨日のNHKのニュース番組では、「都内の繁華街では日中の時間帯にゲームセンターやイベントなどを訪れる中学生や高校生の姿が多く見られました」と報道され、「カラオケボックスやゲームセンターなどのアミューズメント施設では小中学生や高校生の入場を制限する動きが出てきています」という報道もありました。

二中生・二高生のみなさんは、大丈夫ですよ！ 「家だと怒られるから…」なんて思って、ネットカフェとか漫画喫茶とかに行ったりもしていませんか！ これらも「密室」ですから、

専門家会議が指摘する場所に当てはまります。みなさんがお家で行うべきことはたくさんあります。学年末試験の問題もこのホームページにどんどんアップされています。ただ、「ずっと家ではストレスがたまる」という人には、同じNHKの報道でも「**症状のない人は散歩やジョギング、買い物、美術鑑賞など、屋外での活動や人との接触が少ない活動、それに手を伸ばして相手に届かない距離をとって会話することなどは感染のリスクは低いとしています**」とも言っています。

政府の専門家会議は、対策として「ミングる」というキーワードをあげました。英語の mingle …「人と入り交じる」という意味だそうですが、**感染拡大を防ぐために「ミングる」をできるだけ避ける**が必要だと言っています。

この間の休校の意義を生かすために、適切な行動がとれるよう、冷静に考えていきましょう。

大学入試では、2011.3.11.東日本大震災のあとしばらく、面接等で「あなたは3.11.のときはどのように過ごしましたか?」「その時の社会の雰囲気はどう感じましたか?」などと質問されたケースが多々あります(日本大学の付属推薦でも)。「覚えていません」はOUTです! 今の行動は「今」にとどまらずに、「将来」にかかわっていること、ぜひ、意識してください。

②「価値もない」情報を見極めるポイント

①のような報道ばかり気にすると、「若者が悪い!」という声が高まるようで、みなさんを小さくさせてしまうようで、逆に心配にもなりますが、この専門家会議では「**重症、軽症にかかわらず、約80%の人は他人に感染させていない**」,「**感染者のうち80%が軽症、14%が重症、6%が重篤**」とも言っています。ですから、**みなさんだけでなく大人も含めて、冷静に情報を理解する力(リテラシー)が必要**になります。

3月3日の東京新聞の記事では、「新型コロナのような未知の病気に直面した時こそ、正しい情報を入手して活用するヘルスリテラシーが不可欠だ」として、聖路加国際大(本校の生徒も看護学部などに進学することもある

難関大学です)の中山和弘教授(看護情報学)の見解を紹介してくれています。ヘルスリテラシーとは、健康や医療に関する情報の正しい理解と活用のことです。

中山教授は情報の正しさを見極める上で「か・ち・も・な・い(価値もない)」の合言葉を提案しています。出典(根拠など)がない情報はあてにならないと思って、誤った情報に飛びついたり拡散したりしないことが大切です。

- ㉑ 書いた人はだれか。
- ㉒ 違う情報と比べたか
- ㉓ 元ネタ(根拠)は何か
- ㉔ 何のために書かれたか
- ㉕ いつの情報か

これらの情報リテラシーについては、技術や情報の授業で学んでいると思いますが、このような世間の状況の時には、その「学びの力」がまさに問われます。

中央大学の法学部や商学部では、今までの入試でも、集団討論などで「フェイクニュースをいかに見破るか」がテーマになって、集まった受験生が討論するというのもありました。今回の一連の報道は大事な「受験勉強」にもなります。

③今、人気急上昇の小説『ペスト』って？

朝日新聞などで、1月下旬ころから注文が急増している小説として『ペスト』という文庫本が紹介されました。フランスの作家アルベール・カミュという人が、第二次世界大戦後まもない1947年に発表した小説で、ペストという伝染病が拡大して封鎖された街を舞台にした物語です。こんな小説が人気になるのは、まさに今の新型コロナウイルスの影響でしょうね。

日大二中の2・3年生では朝読書も行っていますが、高校生でもやや難しいこの小説、中学生で読んでみた人はいるでしょうか？

あらすじはこんな感じです。フランスの一地域だったアルジェリアのオラン市で、リウーという医師が鼠の死体をいくつか発見する。その後、原因不明の熱病者が続出する。外部と分けられた孤立状態の街で、必死に生きる市民の姿を記すことで、人生の「不条理」と直面した時に現れる人間のあり様を考えさせる。

フランス文学者で、国語の教科書にも登場したり、大学入試でもよく出題されたりする内田樹さんは、この本が大好きで、「『ペスト』とは高校時代に出会いました。いいようのない衝撃に打ちのめされるとともに、不思議に「生きる力」や「勇気」を与えてくれた本で、何度も読み返しました。信じていた友人の裏切り、両親との意見の相違、受験戦争の空虚さ…さまざまな「不条理」に直面していた私にとって、カミュは生きるための武器を与えてくれました。それは、リウーのいう「誠実さ」であり、「職務を果たすこと」というシンプルな言葉。この頃の私にとって、これらの言葉がどれだけ支えになったことでしょうか」(NHK Web サイト 100分de名著77より)とっています。

今回の、突然の休校という不条理だけでなく、中学生・高校生のころは、さまざまな「不条理」を感じ始める時期でもあります。せっかくのこの時期、少し難しくても挑戦して欲しい本です。

以上、新聞にはさまざまな情報があり、大学入試にも直結することが多くあります。毎日、ななめ読みでもチェックする習慣をつけましょう。